SHONAN GAKUIN
HIGH SCHOOL

Library News

2026年 No.1

「湘南学院高等学校　図書企画委員会 発行」

もくじ

湘南学院の図書館をご紹介…3P～11P

POP紹介…12P～17P

小説…18P～21P

編集後記…22P

湘南学院の図書館

自習目的で
来ても良し

をご紹介

本検索はこちらで

今話題の本たち

入口を入ると今話題の本たちが
来館者を出迎えてくれます。
ここには図書企画委員会イチオシの
本や新刊の本が置かれています。

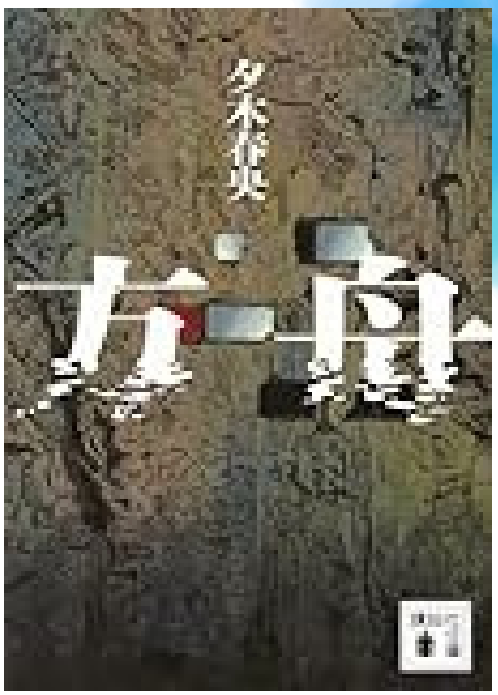
カウンター

図書館に入って左側
本を借りたいときは
ここで本と生徒証を渡します。
図書館のことで困ったことが
あったらこちらへ……

卒業生の古謝選手のサイン入り
ユニフォームもあるよ！

図書館に入って右側
ライトノベルや文庫本の
ある本棚があります。

丸椅子と丸机でゆったり読書
文庫本を借りよう！



BOOK　SELECT

『方舟』　夕木春央

地震で水没の危機に瀕した地下建築「方舟」
に閉じ込められた10人が、脱出のために
殺人犯を1人生贄にする決断を迫られる……

文庫本棚の少し奥
新書の本棚があります

小説を読みたいときはここ！

漫画本棚

図書館の最奥にあります。
キングダムやスラムダンクなどの
人気作も揃っています。

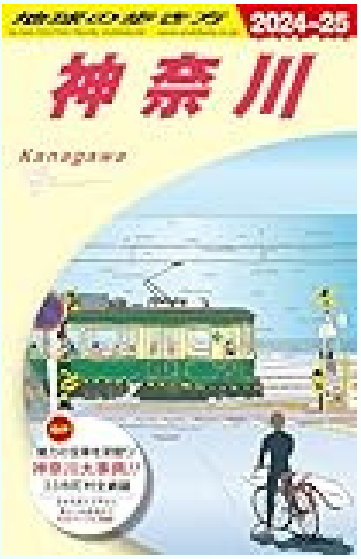
詩集や俳句集、産業に関する本
英語本など様々なジャンルのある本棚

歴史書や画集のある本棚

地理、歴史、美術を
勉強したいならここ！

BOOK　SELECT

『地球の歩き方　神奈川』



地球の歩き方シリーズのなかでも地元が紹介されていて、神奈川に住んでいても知らないことが載っていて読んでいて楽しいです。

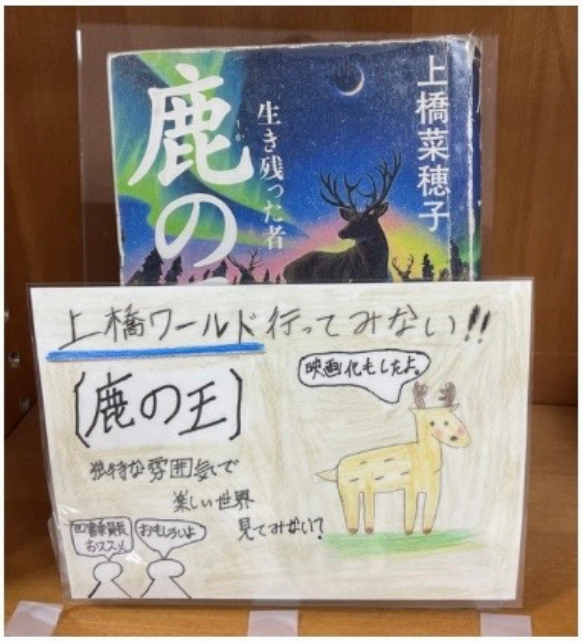
自習室

定期テストが近くなると使用する人が増えます。
静かな空間で勉強したい人にはおすすめです。

BOOK MENU

POP

INTRODUCTION



鹿の王

上橋 菜穂子

制作者のコメント

私がこの本に出会ったのは、小学五年生の時でした。表紙に惹かれるまま読んでしまいました。上橋さんが書く独特な世界観に、私は心を掴まれてしまいました。この出会いは、私にとって、人生の中でも特に最高の出会いです。
興味がある方はぜひ手に取って、上橋ワールドを体験してみてください。

三浦半島記

～街道を行く四十二～

司馬 遼太郎

制作者のコメント

この本の舞台は私たちが住む神奈川が舞台です。いつもさり気なく通っている道や観光名所にされているところなど色々と掲載されています。例えば鶴岡八幡宮や三笠公園など。あまり知られていない歴史の名所もあるので自分で歴史の名所についてもっと深掘りしたいと思う方や大学受験で地元の魅力を語らないといけないという方など幅広く読むことができます。

興味があれば是非お手に取って読んでみてください。

ストロベリー ムーン

芥川 なお

制作者のコメント

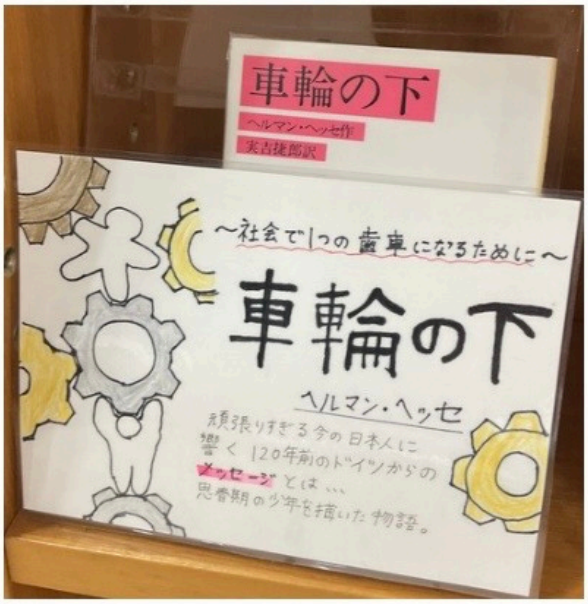
「ストロベリームーン」は、余命半年の少女と少年の純愛を描いた物語です。出会って数時間で恋に落ちた二人が、願いが叶う月を目指す姿に涙が止まりません。透明感溢れる世界観と切ない展開を、是非読んでみてください。

全ての恋が終わるとしても

冬野 夜空

制作者のコメント

冬野夜空さんによる本作は、SNSで反響を呼んだ140字の超短編小説集です。出会いから別れ、再会までを詩的な文体で瑞々しく描写。短い言葉の中に切なさと共感が凝縮され、読書が苦手な人でも一気に世界観に浸れる一冊になっています。ぜひ手に取って読んでみてください。



車輪の下

ヘルマン・ヘッセ

制作者のコメント

この本の作者は西洋文学の父、ヘルマン・ヘッセさんで、この方は『少年の日の思い出』という短編小説で有名な方です。10代の苦悩や葛藤が書かれた小説が多く、現代の中学生や高校生に響く作品が多く、よく読むことが多いです。なかでも『車輪の下』は思春期の葛藤もあり、死にまつわる話で印象が大きかったのでPOPにして皆さんにたくさん読んでもらいと思って選びました。

小説

旅人のマント

　昔、世界のどこかに小さな街があり、そこには旅人がいた。旅人はちょうど旅から帰って来た頃で旅の出来事を街人たちに教えていた。街の役人、その息子、町長さん、そして羊毛の糸紡ぎが得意なオリビアおばさんが街の役人の家で旅人をロッキングチェアに座らせ旅人の話を聞いていた。旅から帰って来た旅人は行きに羽織っていた空にかかるウロコ雲のように白かったオリビアおばさんの羊毛で織られたマントを帰って来たときには、様々な色で雑塗りされたマントにしていたため、マントを織ったオリビアおばさんや好奇心旺盛なまだ幼い役人の息子は非常に興味を持った。すると役人の息子がひと言。
「この色はなに？」
と水色に近い色を指差して言った。すると旅人がひと言。
「これは、聖堂の絵画を描くのを手伝っていたときに着いた色なんだ。青の絵の具なんてめったに見られないからこの汚れは宝物だね。」
と旅人が言うと、オリビアおばさんが怪訝な顔をして
「聖堂にも行ったのね。この街にはないから私たちにとっては目新しいものしかない訳ね。羊毛の毛紡ぎなんかやるよりあなたみたいに旅ができるくらいの暇が欲しいわ。」
と不満げに、そして、嫉妬したように旅人に告げた。すると、旅人は山椒を舐めたかのように口をしびらせて
「確かに、見たことのないものばかりで人生経験は豊富になるかもしれないけど、その聖堂は今、二つの宗教でもめ事になっていて間もなく壊されるかもしれないんです。だから私が一日かけて描いた絵も壊されることに…」町長が旅人の興奮具合をみて口を挟む。

「まあまあ、落ち着いてください。オリビアさんは最近仕事が忙しいので苛立っているのですよ。」と旅人を落ち着かせ水を一杯ついであげた。水を飲む旅人の様子を見ながら役人が
「にしても、どうしてそんなに動揺しているのでしょうか。」
と質問したが、旅人はうつむきながらどこか慈悲のこもった顔をした。旅人が返事に困っていると、無垢な子供が
「この色は何？」
と首を突っ込むように紫色のマントの汚れを指さした。これには、旅人は悩むことなく
「これは、お金持ちの街で着いた汚れなんだ。ちょうどワイン祭りをしていてワインと紙幣がばらまかれていた。そのまちの町長がお金をたくさん作ってくれたからみんなお金持ちになったらしい。」
と晴れ晴れとした顔で答えた。このリズムで子どもは
「じゃあこの色は？」
と質問した途端、旅人の表情は曇り、そのザクロを燻製して渋みを倍増させたような赤色を指差す子どもに、
「少しだけ外に出ていてくれないか。大人だけで話をさせてほしい。」
と役人の息子に対して尊厳をもって答えた。この雰囲気を察したのか、いつも無邪気な子どもはこのときだけおとなしく言う事を聞いて自分の倍の大きさほどあるドアをゆっくり押して外に出た。

　子どもがいなくなって一分ほど、旅人はやっと口を開いた。
「実は、この色だけ理由が違うんだ。この色だけ。」
また、静寂が訪れ、旅人は目のくまを押さえて、ストレスを一息に込めて吐いた。そして、また口を開いて
「十三里先の方で戦争があったんだ。何を思ったのか、私は、ボランティアのつもりで怪我人の手当てをやりに行ったんだ。そこでついた血がこの汚れだよ。」
旅人は旅の証を床に捨てた。

編集後記

編集長のIです。久ぶりのライブラリーニュースかつ少人数での作成だったので大変でしたが全力を尽くしました。これからも図書企画委員会をよろしくお願いします。

制作:図書企画委員会 広報班
(M, S, I)
編集担当:I
イラスト:S
小説:I
発行:湘南学院高等学校 図書企画委員会
発行年月日:2026年5月15日

THANK YOU